

思 い 出 す ま と に (※1)中第 32 回卒 荒 栄一 (※2)

世の中には妙な特技の持主がいるもので、私の知人に半世紀も前の戦時中のことを実に克明に記憶している人がいる。

眞偽の程はともかく、その抜群の記憶力には感服させられる。私はその反対で昔のこととなると全く駄目なのだが、それでも中学時代のこととなると、いくつかの思い出が浮かんで来る。

私は、昭和5年入学、同9年卒業なので当時は既に満州事変が勃発しており、学校でも軍事教練等も行われ、しだいに軍国主義の色合いを濃くしている時代であったが、それでも、まだまだ大正デモクラシーの香りも大分残っており、それなりに自由で楽しい学生生活を送ることができたような気がする。

いろいろな思い出の中で、先生方の思い出となると私は石川 (※3) 先生と笠原 (※4) 先生のことが一番先に浮かんで来る。

石川先生は独学で当時の高文試験をパスした程の努力家なのだが、それだけに又熱心な教育者でもあり、今でも細い竹の鞭で生徒の机を叩きながら講義をされている姿が目に見えて来る。

後年、私は先生のあの真摯な姿を教師の一つの理想像として、皆さんにお話しをして来た程強く印象づけられているのである。

笠原先生は柔道の先生で体の大きな偉丈夫であったが、心のやさしい方でもあった。先生が大谷明 (※5) 君や紺野卓 (※6) 君を引き連れて生徒集会場の入口に仁王立ちになって、ストーム（今の生徒抗議集会？）の鎮圧に当たっている姿が思い出されて懐かしい。

漢文の高野 (※7) 先生、図画の藤田 (※8) 先生、等々卒業して60年余りの年月を経ても忘れ難い、すばらしい先生方が沢山おられたし、生徒も各方面から個性に富んだ優秀な人達が沢山集まって、県立の第四中学校にふさわしい名門校だったと思う。その相馬中学校もやがて相馬高校となり、間もなく創立100周年を迎えようとしている。

誠に喜ばしい限りである。

ただ、残念に思うことは、私は県議在任中に創立100周年記念事業として新しい校舎の建設を考えて来たのだが、いろいろな事情が重なって実現を見ることができなかったことである。

その諸々の事情の中の一つに男女共学の問題があったが、今や男女共学は時の流れであり、私共同窓生も、いつまでも“九百の健男児”の一句に拘泥せず、寧ろ積極的に男女共学を推し進めて、一日も早く新しい校舎を建設したいものと思ひ、願う今日この頃である。終わりに今は亡き級友達の御冥福と、相馬高校の彌栄を祈りつゝ筆をおく。

(※1) 創立百周年記念誌『相中相高百年史』〈1998(平成10)年7月6日発行〉 第四部「思い出の記」より。

(※2) 飯豊出身。昭和9(1934)年卒。東京高農。

(※3) 石川虎之助。相中教諭：大正11(1922)年～昭和7(1932)年。馬城かわら版第226号にも記述。

(※4) 笠原三彌。相中教諭：昭和2(1927)年～昭和9(1934)年。馬城かわら版第226号にも記述。

(※5) 磯部出身。昭和9(1934)年卒。

(※6) 高平出身。昭和9(1934)年卒。

(※7) 高野藤三。中村出身。相中第1回、明治36(1903)年卒。相中～相高教諭：明治39(1906)年～昭和26(1951)年。

(※8) 藤田 魁(雅号 魁山)。太田出身。相中第13回、大正4(1915)年卒。相中教諭：大正15(1926)年～昭和16(1941)年。